

# 令和2年度北海道・東北体育・保健体育ネットワーク研究会 岩手わんこそばラウンド報告書



9杯目！

令和2年8月15日(土) 岩手大学

参加者 17名(東京、神奈川、山形、岩手) ※リモート参加5名

小中高大の教員、指導主事が校種や立場を超えて、「新型コロナウイルス感染症を踏まえた体育・保健体育授業の在り方」や「各運動領域における12年間の系統性」について語り合うことができました。

## 1 情報交換「今後の体育・保健体育授業について」

参加者全員から、①感染レベルに対応した対策と学習活動の実際について、②年間指導計画の工夫・改善について、③授業と家庭学習を関連付けた児童の充実についての3つの視点で、1学期の感染対策の状況を説明いただきました。

各校とも3密を避けること、手指や用具の消毒など、基本的な感染対策を講じながら、体づくり運動系や陸上運動系などの指導を中心に行い、ボール運動系については、感染状況にもよりますが、2学期に指導する予定の学校が多いことがわかりました。

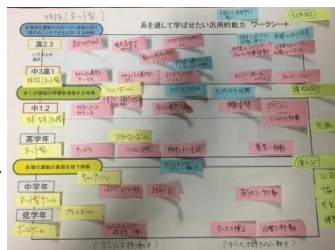
運動会については、午前中の実施、種目の削減、規模の大きい学校が学団ごとに日を変えて実施することなどが紹介されました。また、佐藤豊先生と高橋修一先生からは、子供が意識的に3密を避けるための具体物の活用事例などが紹介され今後の参考になりました。

## 2 ワークショップ「コンテンツ・マップの作成」

佐藤豊先生作成の説明動画を視聴後、個人での作業に入りました。途中、アドバイスをいただいたり、近くの先生方と意見交換したりしながらコンテンツ・マップの作成を進めました。後半は、全体で共有を図りながら岩手大学清水将先生を含め3人の先生方から助言をいただきました。

ボール運動系においては、オープンスキルの取扱いや技能としては明記されていないルックアップの重要性などが話題になりました。器械運動系では、技能の体験が、実は日常の動きの調整に大きくつながっていることなどの指摘がありました。

それぞれの校種における指導に向けて、改めて12年間の系統性を理解しておくことの重要性を学ぶことができました。



## 3 振り返り

運営に関わり、今後の研修会の在り方として、リモートでの参加によるハイブリット型の研修会の可能性について検討することができました。

